

な改善を示した。

【結語】多彩な画像所見を呈し肝生検で診断しえた血管内リンパ腫の1例を経験したので文献的考察を加え報告する。

#### 47 肝破裂で発見された転移性肝腫瘍の1例

高綱 将史・堂森 浩二・佐藤 明人  
 福原 康夫・渡辺 庄治・佐藤 知巳  
 富所 隆・吉川 明

長岡中央総合病院消化器病センター  
 内科

症例は63歳,男性.主訴:腹痛.

2009年2月18日脱肛にて近医受診.腹部腫瘍にて認め当科紹介受診.後腹膜腫瘍の診断で3月13日切除術施行.病理診断は左副腎嚢胞(被膜,血腫あり)であった(synaptophysin陽性).術後は近医で経過観察となった.2012年10月21日AM1時30分,腹痛が出現,増悪したためAM5時,前医へ救急搬送となった.同院で腹部造影CTを施行し,多発肝腫瘍の破裂と診断された.高次医療が必要と考えられ,AM9時当院に搬送された.精査の結果,転移性肝腫瘍の破裂と診断し,同日緊急TAEを試行した.肝腫瘍の生検の結果,神経内分泌腫瘍(NET)と考えられた.病歴を加味するとretrospectiveではあるが,副腎原発の神経内分泌腫瘍による転移性肝腫瘍の診断となった.現在はTAEと化学療法にて治療を行っている.NETの肝転移に対する報告は散見されるものの,肝破裂を契機に発見された症例報告はみられず,極めて稀な症例と考えられる.本症例に関して,今後の慎重な経過観察と治療方針の検討が必要である.

#### 48 術後早期に多発肝転移を来したAFP産生早期胃癌の1例

坂井 俊介・窪田 智之・石川 達  
 木村 成宏・堀米 亮子・本田 博樹  
 岩永 明人・関 慶一・本間 照  
 吉田 俊明・石原 法子\*

済生会新潟第二病院消化器内科  
 同 病理診断科\*

#### 49 脳深部刺激装置植え込み患者の転移性肝癌に対し経皮的ラジオ波焼灼術を施行した1例

廣澤 宏・長谷川伊織・星 義広  
 石川 達\*・窪田 智之\*・吉田 俊明\*

済生会新潟第二病院臨床工学室  
 同 消化器内科\*

#### 50 緩徐な発育を認めた肝原発神経内分泌腫瘍の1切除例

木村 成宏<sup>1)</sup>・石川 達<sup>1)</sup>・窪田 智之<sup>1)</sup>  
 本田 博樹<sup>1)</sup>・堀米 亮子<sup>1)</sup>・岩永 明人<sup>1)</sup>  
 関 慶一<sup>1)</sup>・本間 照<sup>1)</sup>・吉田 俊明<sup>1)</sup>  
 根本 健夫<sup>2)</sup>・武田 敬子<sup>2)</sup>・石原 法子<sup>3)</sup>  
 坪野 俊広<sup>4)</sup>・野本 実<sup>5)</sup>

済生会新潟第二病院消化器内科<sup>1)</sup>  
 同 放射線科<sup>2)</sup>  
 同 病理検査科<sup>3)</sup>  
 同 外科<sup>4)</sup>  
 新潟大学大学院医歯学総合研究科  
 消化器内科学分野<sup>5)</sup>